

郷土を知り、郷土を愛する

志木市 歴史とんぼ

—— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 ——

第57回 田子山富士塚シリーズ③

「山開き」ってナニ？

毎年7月の最初の週末日の午前中に、敷島神社境内で田子山富士塚の「山開き」が開催されます。登山の無事と天下泰平、五穀豊穡を願うものです。

まず、多くの来賓をお迎えして「開山式」を行います。その後「登り初め式」に先立って、登山道入口に張った縄を手力男命が木槌で断つ「お道開き」が行われます。これは、山梨県富士吉田市の北口本宮富士浅間神社で行われている伝統行事です。

さらに、敷島神社の巫女(小学生)による「浦安の舞い」の奉納が行われ、最後に「力石の奉納」が行われるとともに、お囃子も披露されます。

当日は、子どもたちにも楽しんでもらえるように綿あめの販売やヨーヨー釣りなども行います。

また、富士吉田市から「富士山北口御師団」の参加もあります。

「お道開き」、「浦安の舞い」、「力石の奉納」などの伝統行事は大変珍しく、市内外から多くの見物客が来るなど、にぎやかな「山開き」になっています。

日本の伝統文化の詰まった地域の行事「田子山富士塚の山開き」は、7月5日(土)9時30分から開催します。



▲お道開き



▲登り初め式



▲浦安の舞い



▲力石の奉納



絆が育む、志木の未来

日本気象協会の予想によると、関東の梅雨入りは平年並みの6月上旬とのことです。梅雨といえば、湿度も高く、蒸し暑くなるという印象もありますが、紫陽花など、この季節ならではの風物詩もあります。いろは親水公園には市民の方々から愛着を込めて「あじさいロード」と呼ばれている遊歩道もありますので、ぜひ足を運んで、梅雨の彩りを感じてください。

さて、今年は、ひと足早く夏祭りが6月からスタートします。例年7月に開催していた宿組八坂神社祭礼が6月22日に開催されるのを皮切りに、7月12日に下ノ宮八坂神社夏祭り、13日に産財八坂神社夏祭り、19・20日に敷島神社祭典、8月23日には志木ニュータウン森の祭り続きます。特に、宿組八坂神社祭礼では、今年からの新たな取組として、中宗岡一丁目交差点から志木市役所前までの区間が、午後6時30分から9時まで歩行者天国として開放され、子どもたちも参加できるおかめひょっとこ流しや女性だけで担ぐ万燈おんな神輿など、誰もが気軽に参加できる企画も実施されると聞いていますので、私も今からワクワクして

います。それぞれのお祭りは、地域の皆さんの工夫と汗、そして人と人との大切な絆で運営されています。私自身も会場に赴き、活気とにぎわいの輪に加わりながら、皆さんとの交流を深めたいと思っています。

また、志木市は、中心市街地のにぎわいづくりに積極的に取り組んでいます。なかでも竣工から25年が経過し老朽化した志木駅東口のペDESTリアンデッキの改修にあたっては、いかに活気に満ちた、にぎわいあふれる空間にしていくのかを検討しているところです。昨年度に実施した市民参加型のワークショップでは、利活用のコンセプトを「多様な出会いが豊かな心を育てるみんなの居場所」に決定しました。今後はこのコンセプトを基に、ペDESTリアンデッキの改修に向けた設計を実施していきます。

さらに、市内での開店・起業を目指す方に、そのノウハウを積む場を提供する「チャレンジショップ」ですが、志木街づくり株式会社が実施主体となり、4月に1号店が本町5丁目にオープンしました。さらに2号店も、洋菓子やおにぎり、オリジナル雑貨などを販売する店舗として今年の夏にオープン予定です。市内に飲食店や小売店が増えることは商業の活性化やにぎわいづくりにつながります。これからも、志木街づくり株式会社や商工会とのタイアップで店舗の誘致を積極的に展開しながら、地域経済の活性化につなげていきます。

人口減少の今、選ばれるまちを目指すためには、にぎわい創出も大切な取組の1つです。狭い市域だからこそ、人との絆と、そこから生まれるアイディアや知恵を大切にしながら、さまざまな取組でもっともっと志木市を盛り上げていきたい思いです。